

## 第3章 基本的な4つの考え方

基本理念をふまえて、今後5年間を通して実施するさまざまな施策の実現にあたっては、次の4つの考え方を重視します。

### 1 人との関わりを大切にして、個人の自立を促すとともに、社会の一員としての自覚を養う教育を進めます

人は多くの人と出会う中で、相手の意見を聞き、自らの考えを深めるとともに、他人を思いやり敬う気持ちを培います。

また、時には競うことによって自らの力を高め、その一方で他を認めることを学びます。

このように人は、質の高い関わりをもつ中で自立を図り、社会を支える一員へと成長します。そして健全な社会は、一人一人がたがいに認め合い、尊重し合う中で構築されます。

このことから教育においては、人との関わりを基本とし、自らの責任と役割についての自覚を促すとともに、規範意識を養い、ともに行動し協力する姿勢を育むことに重点をおきます。

これまでも市川市では、読書などを通して豊かな人間性を育む取り組みを行ってきました。さらに、家庭・学校・地域の中でのさまざまな関わりを大切にした施策を進め、個人の自立を促すとともに、社会の一員としての自覚を養う教育を進めます。

## 2 体験を重視し、創造力と実践力を育む教育を進めます

人の成長は、学んだことを自分の考えや行動に生かすことにより遂げられるものであり、ここに学びの重要性があります。また、確かな知識や技能を習得し、自ら考え自ら行動する積極的な学びの態度を身に付けることは、斬新な発想や知恵の創造の基となるものであり、このことが社会を豊かにしてきているともいえます。

本来、学びの成果は地道な努力の積み重ねにより得られるものであります。すなわち、多くの体験や経験を通して物事の本質をとらえるとともに、自ら検証を繰り返すことで、はじめて学んだことが生きてくるといえます。

このことから教育においては、実際に見て知り、手にとって感じ、動いて実感するなどといった直接体験を通して論理を確かめ、自らの考えや行動を一層確かなものとすることに重点をおきます。

これまでも市川市では、学校や図書館、博物館などで豊かな体験ができるように取り組んできました。これからも、発達段階や個々の実態に応じたさまざまな体験を重視した施策を進め、創造力と実践力を育む教育を進めます。

### 3 学びや育ちの連続性を社会との連携により強化し、個々の成長を地域で支える教育を進めます

生涯学習社会の到来は、平均寿命の延びと相まって、個人の自己実現への意欲が高まってきていることが背景にあります。

このことから、学校教育を終えた後まで、自らの必要に応じてさまざまな形で学習活動が続ける人が多くなってきており、人は一生を通して学び続け、成長するといっても過言ではありません。

このような時代にあって、個人のもつ能力を伸ばすためには、学習の基礎の力を身に付けるとき、応用力を培うとき、さらには学習の成果を社会に生かすときなど、その人のライフステージに応じた教育を展開することが望まれます。

また、一人一人の成長を確かなものにするためには、実践的な教育を進めることが大切ですが、多くの人と一緒に手を携え、多くの手で支え合うことによって、その効果は一層高まります。

このため教育においては、それぞれのライフステージにおける学びの成果が、次のステップに生きる実践的な教育を、家庭・学校・地域が自分の役割と責任を担いながら一体となって進めることに重点をおきます。

これまでも市川市では、家庭・学校・地域が一体となって子どもの健全な育成について話し合う場をもつなど、地域全体で教育に関わる取り組みを行ってきました。さらに、一層の連携の強化を図り、個々の成長を地域全体で支える教育を進めます。

## 4 情報の公開を適切に行い、教育に関わる評価を推進して、 自律した教育を進めます

国際化や高度情報化の進展などにより、人々の価値観が多様化しており、この価値観の多様化に対応することが今日的な課題ともなっています。

教育の分野においても、公正性・透明性を確保する上で、情報公開や説明責任を果たすことが求められており、教育基本法をはじめとする教育関係法令の改正において、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実、さらには教育の点検・評価などが新たに規定されました。

もとより教育には変えてはならないものと、変えていかなければならないものがあります。このため、法改正の趣旨をふまえつつ、「不易」と「流行」を見誤らず、教育に関わる取り組みが時代や地域の要請に適合しているかどうかを常に見極め、主体的に取り組みの改善と充実を図ることが大切です。

これらのことから教育においては、目標を明確にし、自己点検及び評価を通してその成果を検証するとともに、その結果を取り組みの改善と充実に反映させることに重点をおきます。また、情報の公開を適切に行い、学校や行政が市民への説明責任を果たすとともに、家庭・学校・地域で情報の共有化を図り、教育への信頼を高めることに努めます。

これまでも市川市では、学校評価の取り組みをはじめとして、教育委員会が進める事業の評価を年度ごとに行い、教育施策の改善と充実に努めてきました。さらに、教育に関わる評価の推進に努めるとともに、多くの人の教育への参加を求め、自律した教育を進めます。